

農学部 生物資源科学科 アドミッション・ポリシー

I プログラムの概要

動物・植物・昆虫・微生物・土壌を対象にして生物資源の持続的生産における過程や仕組み、生命科学などについて理解を深めることができるアクティブラーニングを導入した教育プログラムを編成しており、それらの関連分野において地域はもとより国際的に活躍できる行動的知性を備えた人材を養成しています。

「宇大スタンダード」に定める汎用的能力とあわせて、以上のような資質・能力等を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与します。

II 教育課程の概要と入学後の学修に必要な能力や適性等

編 成	概 要	学 修 に 必 要 な 能 力 や 適 性 等
基 盤 教 育 科 目	学士力の土台を固め、自らの可能性を広げるため、(1)大学での学びの意義・目的等の理解や学生生活上の健康・安全等に係る知識や意識、(2)英語や健康、データサイエンス、SDGs など、新たな社会での活躍に求められる知識・技能や考え方などの基礎、(3)自ら問いを立て、答えを導き出すための基本的な方法や異なる専門的背景を持つ他者対話を重ね答えを導き出していく力などを養い身につけていきます。ルーブリックの活用により、宇大スタンダードの6つの力をどの程度身に付けたかを把握し、自らの学びを自分自身で設計していきます。	高等学校までの教科学習等から得た基本的な知識・技能等は全て、大学での学び、とりわけ初年次の学修の素地としてとても重要です。加えて、人間社会や科学技術、芸術等の幅広い分野の知見や考え方に対する貪欲な知的好奇心、建設的に批判し自ら考えようとする主体的・能動的な姿勢や向上心、計画・準備・実行・省察を地道に継続する自己管理の意識などが、基盤教育科目から得られる学びを一層楽しく豊かなものにします。
専 門 教 育 科 目	1 年次には、農学体系の全体像や人々の暮らしと農業との関わりを理解するため、農業と環境の科学、農学部コア実習、生物資源の科学を学びます。また、基礎科目として生物や化学、生産学などを学びます。2 年次から3 年次前期には、専門教育科目として、生物資源・生産環境・生物機能・生物生産技術に関連する科目を学びます。3 年次後期から4 年次にかけては、生物資源科学を総合的・多面的に理解して、地域や地球がかかえる諸問題を解決するための技術と研究の情報に触れ（ゼミ、特別演習など）、一連の研究活動の実験を経験する（卒業論文）中で、生物資源科学に関する専門職業人となるための能力を身につけます。	生物資源の専門分野への関心と持続可能な社会の創造に貢献する意欲を持っていることが望まれます。生物資源とそれを取り巻く環境について幅広い視点から理解するため、高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身に付けていることが必要です。また、身近な地域の課題や地球規模の食料の問題などに対して、学んだ知識を組み合わせ、道筋をたてて様々な面から考察することのできる基礎的な力を必要とします。さらに、他者と協働して学修するためのコミュニケーション能力が不可欠です。

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

本学科では動植物や昆虫などの多様な生物資源の働きやその利用について、生命科学の視点から理解を深めることができる教育プログラムを提供し、それらの関連分野において地域はもとより国際的に活躍できる人材養成を目指しています。高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身につけましょう。また、教科学習を通して、知識を組み合わせる筋道をたてて、色々な面から考察することのできる力を身につけましょう。学校等における学びやクラブ活動等の場において、積極的に他の人とコミュニケーションをとり、協働することを心がけましょう。

III 求める学生像、入学者選抜の基本方針及び入試による評価

- (1) 求める学生像
- 入学時に必要な能力や適性等

① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の基礎的な知識を備えている。
② 生物資源科学の基礎となる数理科目等についての基礎的な知識を備えている。
③ 様々なデータを読み取り、思考し、判断する力を備えている。
④ 生物資源科学における諸問題の解決策を他者と共有するための表現力を備えている。
⑤ 主体性があり、常に問題意識を持ち、解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を備えている。
⑥ 将来、農業やその他の産業に従事し、それぞれの分野の指導的立場をめざす意欲を持っている。

(2) 入学者選抜の基本方針

一 般 選 抜 (前 期 日 程)	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では理科（生物もしくは化学）または数学、並びに英語についての知識や思考力を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
一 般 選 抜 (後 期 日 程)	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは、「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では面接により、思考力、表現力、学修への主体性、コミュニケーション能力等の資質を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
総 合 型 選 抜 A (一 般)	出願書類、専門分野に関する講義受講後のグループディスカッション、講義とグループディスカッションの内容をふまえたレポートの作成、及び面接の結果を総合して選抜を行います。講義では生物や化学など高等学校等で学習する内容を含むことがあります。面接は個人面接とし、「活動経験についての報告書」及び「進学後の自己設計書」に関する質問を含みます。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。
学 校 推 薦 型 選 抜	面接および小論文の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。面接では、本学科で学ぶ適性を見るために、学びに対する意欲や主体性、コミュニケーション能力のほか、基礎知識、思考力、表現力などを評価します。小論文では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる基礎学力、思考力、判断力、表現力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。
私 費 外 国 人 留 学 生 選 抜	英語外部試験、日本留学試験および面接の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。英語外部試験、日本留学試験では、入学後の学びの基盤となる語学力、基礎学力、思考力、判断力を評価します。面接では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる、基礎学力、表現力、主体性および学修意欲を評価します。また、学びの取り組みを確認するために出願書類（成績証明書等）を使用します。

(3) 入試による入学時に必要な能力や適性等の評価

入 学 時 に 必 要 な 能 力 や 適 性 等			①	②	③	④	⑤	⑥
「 学 力 の 3 要 素 」 と の 対 応			知 識 ・ 技 能		思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力		主 体 性 等	
一 般 選 抜	前 期 日 程	大 学 入 学 共 通 テ ス ト	☆☆☆		☆☆			
		個 別 学 力 検 査	☆☆☆		☆☆	☆		
		出 願 書 類 （ 調 査 書 ）	○					
	後 期 日 程	大 学 入 学 共 通 テ ス ト	☆☆☆		☆☆			
		面 接			☆☆		☆☆☆	
		出 願 書 類 （ 調 査 書 ）	○					
総 合 型 選 抜	A (一 般)	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン ※1	☆		☆☆☆		☆☆	
		レ ポ ー ト 作 成 ※1	☆		☆☆☆			
		面 接	☆☆		☆☆		☆☆☆	
		出 願 書 類 （ 調 査 書 ）	○					
		出 願 書 類 (活動経験についての報告書)	○					
		出 願 書 類 (進学後の自己設計書)	○					
学 校 推 薦 型 選 抜		面 接	☆☆		☆☆		☆☆☆	
		小 論 文	☆☆	☆	☆☆☆			
		出 願 書 類 （ 推 薦 書 ）	○					
		出 願 書 類 （ 調 査 書 ）	○					
私 費 外 国 人 留 学 生 選 抜		英 語 外 部 試 験	☆☆☆					
		日 本 留 学 試 験	☆☆☆		☆☆			
		面 接	☆☆		☆☆		☆☆☆	
		出 願 書 類 （ 成 績 証 明 書 等 ）	○					

※1 グループディスカッション、レポート作成は「専門分野に関する講義」を受講したのちに行う。
(i) ○は、確認・参考のみとするもの、合・否、適・不適等により評価するもの
(ii) ☆～☆☆☆は、点数・段階評価するもの

農学部 応用生命化学科 アドミッション・ポリシー

I プログラムの概要

生命の営みを支える物質を明らかにすることや、その代謝などによる構造や機能の変化を解明すること、すなわち、さまざまな事象を“物質の流れ”という観点から解明することを通じて、真に豊かな暮らしを支える科学技術の発展を図るための基本的・応用的な教育研究をおこないます。生命・食品・環境の分野の諸問題の解決に取り組むための知識・技能と行動的知性を備え持つ人材を育成します。

「宇大スタンダード」に定める汎用的能力とあわせて、以上のような資質・能力等を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与します。

II 教育課程の概要と入学後の学修に必要な能力や適性等

編成	概 要	学 修 に 必 要 な 能 力 や 適 性 等
基 盤 教 育 科 目	学士力の土台を固め、自らの可能性を広げるため、(1)大学での学びの意義・目的等の理解や学生生活上の健康・安全等に係る知識や意識、(2)英語や健康、データサイエンス、SDGs など、新たな社会での活躍に求められる知識・技能や考え方などの基礎、(3)自ら問いを立て、答えを導き出すための基本的な方法や異なる専門的背景を持つ他者と対話を重ね答えを導き出していく力などを養い身につけていきます。ルーブリックの活用により、宇大スタンダードの6つの力をどの程度身に付けたかを把握し、自らの学びを自分自身で設計していきます。	高等学校までの教科学習等から得た基本的な知識・技能等は全て、大学での学び、とりわけ初年次の学修の素地としてとても重要です。加えて、人間社会や科学技術、芸術等の幅広い分野の知見や考え方に対する貪欲な知的好奇心、建設的に批判し自ら考えようとする主体的・能動的な姿勢や向上心、計画・準備・実行・省察を地道に継続する自己管理の意識などが、基盤教育科目から得られる学びを一層楽しく豊かなものにします。
専 門 教 育 科 目	生化学、食品化学、微生物学、分子生物学、有機化学、および化学実験の科目から構成されており、以下の要素を修得します。(1) さまざまな事象を“物質の流れ”として把握できる力、すなわち、「化学」をツールとして使いこなす力を養成します。基礎有機化学、基礎無機化学および演習科目などにより基礎的な化学を、食品化学、高分子材料化学、生物有機化学などにより発展的・応用的な化学を修得します。(2) 科学技術の実践的「応用力」を学修するため、基礎化学実験、応用生命化学実験などの科目を修得します。(3)「生命」について広い視座で修得するために、基礎生命科学、分子生理学、分子生命科学、微生物学、生物化学などに加え、食と細胞の科学、化学と生命など、人々の暮らしに関する問題意識や、哲学・倫理的な考え方なども必要とする科目を修得します。	本学科における学びを進めるためには、応用生命化学の専門分野への幅広い関心や、持続可能な社会の創造に貢献したいという意欲が必要となります。生命・食品・環境の分野の諸問題の解決に取り組む力を身に付けるためには、基礎的学力をバランスよく身に付けていることが必要です。また、身近な地域の課題や地球規模の食料の問題などに取り組む力を身に付けるためには、学んだ知識を組み合わせ道筋をたてて様々な面から考察しようとする姿勢が求められます。さらに、これらの学びを深めていくために、他者と協働して学修するためのコミュニケーション能力が不可欠です。

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

高等学校等では、様々な教科・科目の学習に積極的に取り組み、基礎的学力をバランスよく身に付けてください。また、探究学習等においては、異なる分野（科目等）の知識を組み合わせることや、一緒に取り組んでいる仲間の意見にも耳を傾けてみることを心がけ、好奇心を持って取り組んでください。高等学校等における学びやクラブ活動等の場においては、積極的に他の人とコミュニケーションをとり、考え方には多様性があることを感じ取るよう努めてください。

III 求める学生像、入学者選抜の基本方針及び入試による評価

(1) 求める学生像

- 入学時に必要な能力や適性等
- ①高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の基礎的な知識を備えている。

②応用生命化学の基礎となる化学や数理科目等についての基礎的な知識を備えている。

③様々なデータを読み取り、思考し、判断する力を備えている。

④ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめ、簡潔に分かりやすく表現できる。

⑤真に豊かな暮らしを支える科学技術を発展させたいという意欲を持っている。

⑥科学に対する熱意、主体的な姿勢、コミュニケーション能力を持っている。

(2) 入学者選抜の基本方針

一 般 選 抜 (前 期 日 程)	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では、入学後の学びの基本ツールとなる化学および英語についての知識や思考力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
一 般 選 抜 (後 期 日 程)	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では、面接により諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要とされる、思考力、表現力、学修への主体性、コミュニケーション能力等の資質を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
総 合 型 選 抜 A (一 般)	論述試験および面接の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。論述試験では、化学基礎及び化学に関する基礎知識や論理的思考力を評価します。面接は、化学に関する内容の口頭試問および出願書類（自己推薦書）に関する質問を含み、学びに対する意欲や主体性、コミュニケーション能力のほか、基礎知識、思考力、表現力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。
学 校 推 薦 型 選 抜	面接および小論文の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。面接では、本学科で学ぶ適性を見るために、学びに対する意欲や主体性、コミュニケーション能力のほか、基礎知識、思考力、表現力などを評価します。小論文では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる基礎学力、思考力、判断力、表現力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。
私 費 外 国 人 留 学 生 選 抜	英語外部試験、日本留学試験および面接の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。英語外部試験、日本留学試験では、入学後の学びの基盤となる語学力、基礎学力、思考力、判断力を評価します。面接では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる、基礎学力、表現力、主体性および学修意欲を評価します。また、学びの取り組みを確認するために出願書類（成績証明書等）を使用します。

(3) 入試による入学時に必要な能力や適性等の評価

入学時に必要な能力や適性等			①	②	③	④	⑤	⑥	
「学力の3要素」との対応			知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等		
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	☆☆☆		☆☆				
		個別学力検査	☆☆☆		☆☆	☆			
		出願書類（調査書）	○						
	後期日程	大学入学共通テスト	☆☆☆		☆☆				
		面接			☆☆		☆☆☆		
		出願書類（調査書）	○						
総合型選抜	A（一般）	論述試験	☆☆☆		☆☆	☆			
		面接	☆		☆☆		☆☆☆		
		出願書類（調査書）	○						
		出願書類（自己推薦書）	○						
学校推薦型選抜		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆		
		小論文	☆☆	☆	☆☆☆				
		出願書類（推薦書）	○						
		出願書類（調査書）	○						
私費外国人留学生選抜		英語外部試験	☆☆☆						
		日本留学試験	☆☆☆		☆☆				
		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆		
		出願書類（成績証明書等）	○						

※ 1 グループディスカッション、レポート作成は「専門分野に関する講義」を受講したのちに行う。

(i) ○は、確認・参考のみとするもの、合・否、適・不適等により評価するもの

(ii) ☆～☆☆☆は、点数・段階評価するもの

農学部 農業環境工学科
アドミッション・ポリシー

I プログラムの概要

農村環境の創出・管理・評価、持続可能な食料生産の確保、再生可能エネルギーやバイオマス資源の利用に関する学識を身につけ、社会の幅広い分野で活躍でき、行動的知性を兼ね備えた技術者を育成することを目指しています。2年生後期から、①水土環境工学コース、②食料生産システム工学コースのいずれかに分属し、それぞれの専門領域について学修します。この2コースではそれぞれ、①地域資源・地域環境の適切な利用と管理、田園空間の総合的デザインに携わる専門技術者、②圃場機械や栽培・流通施設、廃棄物・バイオマス管理など、食料生産環境システムの機構とその設計、制御に携わる専門技術者の育成が図られます。なお、本プログラムはJABEE（日本技術者教育認定機構）による技術者教育プログラムとしての認定を受けており、卒業と同時に修習技術者となり、技術士補の国家資格を得ることができます。「宇大スタンダード」に定める汎用的能力とあわせて、以上のような資質・能力等を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与します。

II 教育課程の概要と入学後の学修に必要な能力や適性等

編成	概 要	学 修 に 必 要 な 能 力 や 適 性 等
基盤教育科目	学士力の土台を固め、自らの可能性を広げるため、(1)大学での学びの意義・目的等の理解や学生生活上の健康・安全等に係る知識や意識、(2)英語や健康、データサイエンス、SDGsなど、新たな社会での活躍に求められる知識・技能や考え方などの基礎、(3)自ら問いを立て、答えを導き出すための基本的な方法や異なる専門的背景を持つ他者対話を重ね答えを導き出していく力などを養い身につけていきます。ルーブリックの活用により、宇大スタンダードの6つの力をどの程度身に付けたかを把握し、自らの学びを自分自身で設計していきます。	高等学校までの教科学習等から得た基本的な知識・技能等は全て、大学での学び、とりわけ初年次の学修の素地としてとても重要です。加えて、人間社会や科学技術、芸術等の幅広い分野の知見や考え方に対する貪欲な知的好奇心、建設的に批判し自ら考えようとする主体的・能動的な姿勢や向上心、計画・準備・実行・省察を地道に継続する自己管理の意識などが、基盤教育科目から得られる学びを一層楽しく豊かなものにします。
専門教育科目	①水土環境工学コース、②食料生産システム工学コースの2コースがあり、学生の履修すべき専門科目は学科共通必修科目、コース別必修科目、コース別選択科目に分類されます。「農学の役割について理解し、認識を深める」ことは主として基盤教育で培われ、「自然環境の理解と技術者としての責任感」、「田園空間環境創出のための工学的手法」、「課題解決能力や論理的思考力」等を習得するために必要な科目群を学科共通必修、「データ解析力」の習得に必要な科目群をコース別必修として配置しています。コース分属が2年生後期開始時であるため、学科共通必修科目は1年生から2年生前期に開講されます。	環境と調和した農業システムへの関心と持続可能な社会の創造に貢献する意欲を持っていることが望まれます。農村環境の創出・管理・評価、持続可能な食料生産の確保、再生可能エネルギーやバイオマス資源の利用などについて幅広い視点から理解するため、高等学校の様々な理数系を中心とした教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身に付けていることが必要です。また、身近な地域の課題や地球規模の食料の問題などに対して、学んだ知識を組み合わせ、道筋をたてて様々な面から考察することのできる基礎的な力を必要とします。さらに、他者と協働して田園空間環境を創出するためのコミュニケーション能力が不可欠です。

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

本学科では豊かな環境の創出・管理・評価、持続可能な食料生産、再生可能エネルギーなどに関する学識を身につけ、社会の幅広い分野で活躍できる技術者を育成することを目指しています。高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身につけましょう。また、教科学習を通して、知識を組み合わせる筋道をたてて、色々な面から考察することのできる力を身につけましょう。学校等における学びやクラブ活動等の場において、積極的に他の人とコミュニケーションをとり、協働することを心がけましょう。

III 求める学生像、入学者選抜の基本方針及び入試による評価

- (1) 求める学生像
- 入学時に必要な能力や適性等

①高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の基礎的な知識を備えている。
②農業環境工学の基礎となる数理科目等についての基礎的な知識と学力を備えている。
③様々なデータを読み取る力、論理的な思考力、判断力を備えている。
④広く社会や環境に関わる問題意識をもち、諸問題の解決策を他者と共有するための表現力を備えている。
⑤主体性があり、常に問題意識を持ち、解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を備えている。
⑥環境と調和した農業システムや田園空間の創出に関心および情熱を備えている。

(2) 入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では数学および英語についての知識や思考力を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
一般選抜（後期日程）	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは、「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では面接により、思考力、表現力、学修への主体性、コミュニケーション能力等の資質を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
総合型選抜A（一般）	出願書類、専門分野に関する講義の受講、講義内容をふまえたグループディスカッション、講義内容及びグループセッションの内容をふまえたレポートの作成、面接の結果を総合して選抜を実施します。グループディスカッションでは、主体性、判断力、協働力・コミュニケーション能力を評価します。小論文では、基礎学力、思考力、表現力を評価します。面接では、本学科で学ぶ適性を見るために、学びに対する意欲や主体性、コミュニケーション能力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。
学校推薦型選抜	出願書類、面接、小論文を総合して選抜を行います。面接では、本学科で学ぶ適性を見るために、学びに対する意欲や主体性、コミュニケーション能力のほか、基礎知識、思考力、表現力などを評価します。小論文では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる基礎学力、思考力、判断力、表現力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。
私費外国人留学生選抜	英語外部試験、日本留学試験および面接の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。英語外部試験、日本留学試験では、入学後の学びの基盤となる語学力、基礎学力、思考力、判断力を評価します。面接では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる、基礎学力、表現力、主体性および学修意欲を評価します。また、学びの取り組みを確認するために出願書類（成績証明書等）を使用します。

(3) 入試による入学時に必要な能力や適性等の評価

入学時に必要な能力や適性等		①	②	③	④	⑤	⑥
「学力の3要素」との対応		知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	☆☆☆	☆☆			
		個別学力検査	☆☆☆	☆☆	☆		
	後期日程	出願書類（調査書）		○			
		大学入学共通テスト	☆☆☆				
総合型選抜	A（一般）	面接		☆☆		☆☆☆	
		出願書類（調査書）		○			
		グループディスカッション ※1	○		☆☆☆		☆☆
		レポート作成 ※1	○	☆☆☆	☆☆		
		面接			☆		☆☆☆
学校推薦型選抜		出願書類（調査書）		○			
		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆
		小論文	☆☆	☆	☆☆☆		☆☆☆
		出願書類（推薦書）		○			
私費外国人留学生選抜		出願書類（調査書）		○			
		英語外部試験	☆☆☆				
		日本留学試験	☆☆☆	☆☆			
		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆
		出願書類（成績証明書等）		○			

※1 グループディスカッション、レポート作成は「専門分野に関する講義」を受講したのちに行う。
(i) ○は、確認・参考のみとするもの、合・否、適・不適等により評価するもの
(ii) ☆～☆☆☆は、点数・段階評価するもの

農学部 農業経済学科
アドミッション・ポリシー

I プログラムの概要

本プログラムは、農学部で唯一の文系学科として、国内外の食料・農業・農村について、社会科学の視点から教育・研究・地域貢献を行っています。食料・農業・農村にかかわる生産、加工、流通、消費、貿易を対象に、行政や農業関連団体、金融や食料関連産業の分析を含めて総合的に学修します。21世紀の世界が直面する諸問題の解決に寄与できるよう、広い視野から実社会に貢献できる行動的知性を備えた人材を養成する目的でカリキュラムを編成しており、「自らの意思で学び、自ら思考する」能力の開発を目指しています。

「宇大スタンダード」に定める汎用的能力とあわせて、以下のような資質・能力等を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与します。

II 教育課程の概要と入学後の学修に必要な能力や適性等

編成	概 要	学 修 に 必 要 な 能 力 や 適 性 等
基盤教育科目	学士力の土台を固め、自らの可能性を拡げるため、(1)大学での学びの意義・目的等の理解や学生生活上の健康・安全等に係る知識や意識、(2)英語や健康、データサイエンス、SDGsなど、新たな社会での活躍に求められる知識・技能や考え方などの基礎、(3)自ら問いを立て、答えを導き出すための基本的な方法や異なる専門的背景を持つ他者対話を重ね答えを導き出していく力などを養い身につけていきます。ルーブリックの活用により、宇大スタンダードの6つの力をどの程度身に付けたかを把握し、自らの学びを自分自身で設計していきます。	高等学校までの教科学習等から得た基本的な知識・技能等は全て、大学での学び、とりわけ初年次の学修の素地としてとても重要です。加えて、人間社会や科学技術、芸術等の幅広い分野の知見や考え方に対する貪欲な知的好奇心、建設的に批判し自ら考えようとする主体的・能動的な姿勢や向上心、計画・準備・実行・省察を地道に継続する自己管理の意識などが、基盤教育科目から得られる学びを一層楽しく豊かなものにします。
専門教育科目	講義系科目として①社会科学の基礎理論、②専門基礎科目、③専門関連科目、④他学科・他学部の関連基礎科目を段階的・総合的に編成しています。トレーニング系科目として⑤計量分析や財務経営分析の知識、⑥少人数ゼミナール形式の演習を重視するとともに、実習系学修として⑦農業や関連業界の実態を知るための実習や現地調査を配置しています。少人数ゼミナール教育、フィールド体験型調査実習、情報収集・分析トレーニング等を重視し、現場重視の教育体系を取っています。こうして身につけた能力を4年次の卒業論文で集大成させており、「自らの意思で学び、自ら思考する」能力の開発を目指し、幅広く深い教養を持った、実社会に貢献できる人材を養成する目的でカリキュラムを編成しています。	国内外の経済社会と食料・農業・農村への関心と持続可能な社会の創造に貢献する意欲を持っていることが望まれます。食料・農業・農村にかかわる生産、加工、流通、消費、貿易などについて幅広い視点から理解するため、高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身に付けていることが必要です。また、身近な地域の課題や地球規模の食料の問題などに対して、学んだ知識を組み合わせ、道筋をたてて様々な面から考察することのできる基礎的な力を必要とします。さらに、他者と協働して学修するためのコミュニケーション能力が不可欠です。

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

本学科では国内外の食料・農業・農村について、社会科学の視点から理解を深めることができる教育プログラムを提供し、それらの関連分野において地域はもとより国際的に活躍できる人材養成を目指しています。高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身につけましょう。また、教科学習を通して、知識を組み合わせ、筋道をたてて、色々な面から考察することのできる力を身につけましょう。学校等における学びやクラブ活動等の場において、積極的に他の人とコミュニケーションをとり、協働することを心がけましょう。

III 求める学生像、入学者選抜の基本方針及び入試による評価

- (1) 求める学生像
- 入学時に必要な能力や適性等

①高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の基礎的な知識を備えている。

②農業経済学の基礎となる社会系科目についての基礎的な知識を備えている。

③様々なデータを読み取り、論理的に思考し、判断する力を備えている。

④農業経済学における諸問題の解決策を他者と共有するための表現力を備えている。

⑤常に問題意識を持ち、解決に向けて主体的に考え、行動を起こす態度を備えている。

⑥現実の社会の中から学ぶ意欲と、コミュニケーション能力をもっている。
- (2) 入学者選抜の基本方針
- | | |
|-------------|---|
| 一般選抜（前期日程） | 大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは「文系型」または「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では英語についての知識や思考力を評価するとともに、数学または小論文により諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる基礎学力、思考力、判断力、表現力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。 |
| 一般選抜（後期日程） | 大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは「文系型」または「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では面接により、思考力、表現力、学修への主体性、コミュニケーション能力等の資質を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。 |
| 総合型選抜A（一般） | 出願書類、専門分野に関する講義受講後の講義の内容をふまえたレポートの作成、及び面接の結果を総合して選抜を行います。講義では社会問題や食料・農業の時事問題に関する内容を含むことがあります。面接は個人面接とし、学びに対する意欲や主体性、コミュニケーション能力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。 |
| 学校推薦型選抜 | 出願書類、面接、小論文を総合して評価します。面接では、本学科で学ぶ適性を見るために、学びに対する意欲や主体性、食料・農業・農村への関心、コミュニケーション能力のほか、基礎知識、思考力、表現力などを評価します。小論文では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる基礎学力、思考力、判断力、表現力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。 |
| 私費外国人留学生選 抜 | 日本留学試験、小論文及び面接の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。日本留学試験では、入学後の学びの基盤となる語学力、基礎学力、思考力、判断力を評価します。小論文では、社会科学に関する基礎的な思考力及び表現力を評価します。面接では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる、基礎学力、表現力、主体性および学修意欲を評価します。また、学びの取り組みを確認するために出願書類（成績証明書等）を使用します。 |
- (3) 入試による入学時に必要な能力や適性等の評価
- | 入学時に必要な能力や適性等 | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | | | |
|-------------------|-------|-----------------------|-----------|---|-----------------------|---|---------|---|--|--|--|--|
| 「学 力 の 3 要 素」との対応 | | | 知 識 ・ 技 能 | | 思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 | | 主 体 性 等 | | | | | |
| 一般選抜 | 前期日程 | 大 学 入 学 共 通 テ ス ト | ☆☆☆ | | ☆☆ | | | | | | | |
| | | 個 別 学 力 検 査 | ☆☆☆ | | ☆☆ | ☆ | | | | | | |
| | 後期日程 | 出 願 書 類（ 調 査 書 ） | ○ | | | | | | | | | |
| | | 大 学 入 学 共 通 テ ス ト | ☆☆☆ | | ☆☆ | | | | | | | |
| 総合型選抜 | A（一般） | 面 接 | | | ☆☆ | | ☆☆☆ | | | | | |
| | | 出 願 書 類（ 調 査 書 ） | ○ | | | | | | | | | |
| | | レ ポ ー ト 作 成 ※1 | ☆☆ | ☆ | ☆☆☆ | | | | | | | |
| | | 面 接 | ☆☆ | | ☆☆ | | ☆☆☆ | | | | | |
| 学校推薦型選 抜 | | 出 願 書 類（ 調 査 書 ） | ○ | | | | | | | | | |
| | | 出 願 書 類（活動経験についての報告書） | ○ | | | | | | | | | |
| | | 面 接 | ☆☆ | | ☆☆ | | ☆☆☆ | | | | | |
| | | 小 論 文 | ☆☆ | ☆ | ☆☆☆ | | | | | | | |
| 私費外国人留学生選抜 | | 出 願 書 類（ 調 査 書 ） | ○ | | | | | | | | | |
| | | 日 本 留 学 試 験 | ☆☆☆ | | ☆☆ | | | | | | | |
| | | 小 論 文 | ☆☆ | | ☆☆☆ | | | | | | | |
| | | 面 接 | ☆☆ | | ☆☆ | | ☆☆☆ | | | | | |
| | | 出 願 書 類（成 績 証 明 書 等） | ○ | | | | | | | | | |
- ※1 レポート作成は「専門分野に関する講義」を受講したのちに行う。
(i) ○は、確認・参考のみとするもの、合・否、適・不適等により評価するもの
(ii) ☆～☆☆☆は、点数・段階評価するもの
- 22
- Utsunomiya University | Guide Book 2025
- 23
- 農学部

農学部 森林科学科
アドミッション・ポリシー

Ⅰ プログラムの概要

本プログラムの特色は、森林の育成・管理から生産物の加工利用までの一連の流れを基軸とし、森林の持つ木材生産機能と環境保全機能を総合的に学修する点にあります。本学科の授業科目は、自然科学系から社会科学系までの幅広い分野から構成されていますが、特に演習林を主体とした実践的野外実習による行動的知性の涵養が重視されており、森林に関わる専門分野の基礎から応用にいたる科目と、実習科目を有機的に組合せたカリキュラムとなっています。

「宇大スタンダード」に定める汎用的能力とあわせて、以上のような資質・能力等を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与します。

Ⅱ 教育課程の概要と入学後の学修に必要な能力や適性等

編 成	概 要	学 修 に 必 要 な 能 力 や 適 性 等
基 盤 教 育 科 目	学士力の土台を固め、自らの可能性を広げるため、(1)大学での学びの意義・目的等の理解や学生生活上の健康・安全等に係る知識や意識、(2)英語や健康、データサイエンス、SDGsなど、新たな社会での活躍に求められる知識・技能や考え方などの基礎、(3)自ら問いを立て、答えを導き出すための基本的な方法や異なる専門的背景を持つ他者対話を重ね答えを導き出していく力などを養い身につけていきます。ルーブリックの活用により、宇大スタンダードの6つの力をどの程度身に付けたかを把握し、自らの学びを自分自身で設計していきます。	高等学校までの教科学習等から得た基本的な知識・技能等は全て、大学での学び、とりわけ初年次の学修の素地としてとても重要です。加えて、人間社会や科学技術、芸術等の幅広い分野の知見や考え方に対する貪欲な知的好奇心、建設的に批判し自ら考えようとする主体的・能動的な姿勢や向上心、計画・準備・実行・省察を地道に継続する自己管理の意識などが、基盤教育科目から得られる学びを一層楽しく豊かなものにします。
専 門 教 育 科 目	授業の科目群を1)基軸科目（導入、総合）、2)専門基礎科目群および3)専門科目群（育林学、森林社会科学、森林工学、林産学の4教育分野）の3つに区分しています。基軸科目（導入）は以後の学修をして行く上で不可欠な科目群であり、専門基礎科目は、各教育分野の専門科目を理解するのに必要となる科目群です。また、専門科目は、学生が必ず修得すべき学修領域が必修科目として設定されており、さらに専門選択科目を学修することによって森林、林業、林産業に対する専門知識を深めていきます。基軸科目（総合）は、森林科学の思想と技術を学修・修得した後、さらに総合的なテーマに協力して取り組むことなどを通じ、専門家としての資質を高めるために設定された科目群です。	森林科学の専門分野への関心と持続可能な社会の創造に貢献する意欲を持っていることが望まれます。森林の持つ木材生産機能と環境保全機能を総合的に理解するため、高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身に付けていることが必要です。また、身近な地域の課題や地球規模の問題などに対して、学んだ知識を組み合わせ、道筋をたてて様々な面から考察することのできる基礎的な力を必要とします。さらに、他者と協働して学修するためのコミュニケーション能力が不可欠です。

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

本学科では森林を取り巻く諸問題の解決に取り組むため、森林の育成・管理から生産物の加工利用までの理解を深めることができる教育プログラムを提供し、知識・技能と行動的知性を備え持つ人材（フォレスター）の養成を目指しています。高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、基礎的学力をバランスよく身につけましょう。また、教科学習を通して、知識を組み合わせる筋道をたてて、色々な面から考察することのできる力を身につけましょう。学校等における学びやクラブ活動等の場において、積極的に他の人とコミュニケーションをとり、協働することを心がけましょう。

Ⅲ 求める学生像、入学者選抜の基本方針及び入試による評価

(1) 求める学生像

- 入学時に必要な能力や適性等
- ①高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の基礎的な知識を備えている。

②森林科学の基礎となる数理系と社会系科目等についての基礎学力を有している。

③様々なデータを読み取り、思考し、判断する力を備えている。

④森林科学における諸問題の解決策を他者と共有するための表現力を備えている。

⑤主体性があり、森林・林業分野への熱意を持ち、行動を起こす意欲とコミュニケーション能力を備えている。

⑥森林・林業分野への熱意と、将来には指導的立場をめざす意欲を持っている。

(2) 入学者選抜の基本方針

一 般 選 抜 (前 期 日 程)	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では理科（生物、化学もしくは物理）または数学、並びに英語についての知識や思考力を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
一 般 選 抜 (後 期 日 程)	大学入学共通テストおよび個別学力検査等の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。入学後の学びの基盤となる基礎学力を評価するために、大学入学共通テストでは、「理系型」の科目群を受験してもらいます。個別学力検査等では面接により、思考力、表現力、学修への主体性、コミュニケーション能力等の資質を評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。
総 合 型 選 抜 A (一 般)	出願書類、論述試験、面接及び大学入学共通テストの結果を総合して選抜を実施します。論述試験では、森林科学を学ぶ上で必要とされる数理系科目と社会系科目等に関する基礎的な素養及び論理的思考力を評価します。面接は個人面接とし、コミュニケーション能力と社会への貢献、森林・林業分野に対する関心や意欲を評価します。
学 校 推 薦 型 選 抜	出願書類、面接、小論文を総合して選抜を行います。面接では、本学科で学ぶ適性を見るために、学びに対する意欲や主体性、コミュニケーション能力のほか、基礎知識、思考力、表現力などを評価します。小論文では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる基礎学力、思考力、判断力、表現力などを評価します。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等をも含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書等）を使用します。
私 費 外 国 人 留 学 生 選 抜	英語外部試験、日本留学試験、小論文及び面接の結果、並びに出願書類を総合して選抜を行います。英語外部試験、日本留学試験では、入学後の学びの基盤となる語学力、基礎学力、思考力、判断力を評価します。小論文では、森林・林産業について学ぼうとする熱意、論理的思考能力、記述表現能力を評価します。面接では、諸問題の解決に取り組む力を養う上で必要となる、基礎学力、表現力、主体性および学修意欲を評価します。また、学びの取り組みを確認するために出願書類（成績証明書等）を使用します。

(3) 入試による入学時に必要な能力や適性等の評価

入学時に必要な能力や適性等			①	②	③	④	⑤	⑥	
「学力の3要素」との対応			知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等		
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	☆☆☆		☆☆				
		個別学力検査	☆☆☆		☆☆	☆			
		出願書類（調査書）	○						
	後期日程	大学入学共通テスト	☆☆☆		☆☆				
		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆		
総合型選抜	A（一般）	出願書類（調査書）	○						
		大学入学共通テスト	☆☆☆		☆☆☆				
		論述試験	☆☆	☆	☆☆☆				
		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆		
		出願書類（調査書）	○						
学校推薦型選抜		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆		
		小論文	☆☆	☆	☆☆☆				
		出願書類（推薦書）	○						
		出願書類（調査書）	○						
		英語外部試験	☆☆☆						
私費外国人留学生選抜		日本留学試験	☆☆☆		☆☆				
		小論文			☆☆☆		☆☆		
		面接	☆☆		☆☆		☆☆☆		
		出願書類（成績証明書等）	○						

(i) ○は、確認・参考のみとするもの、合・否、適・不適等により評価するもの
(ii) ☆～☆☆☆は、点数・段階評価するもの